

世界の中で最高の医師は獣医師である 言葉を持たない患者の情報をきちんと知ることができるのだから

俳優・作家 ウィル・ロジャース(アメリカ)



獣医師の活動分野

「獣医師＝動物のお医者さん」というイメージが一般的かもしれませんが、実際はそれだけではありません。獣医師の仕事の場は、皆さんの想像以上に多いのです。

犬や猫などの家庭動物の診療や、牛や豚などの家畜の診療といった「動物診療」は獣医師としての重要な仕事ですが、これらは獣医師の活動分野の一部にすぎません。公務員として家畜伝染病を防ぐ家畜衛生分野や、狂犬病をはじめとする人と動物の共通感染症の予防にあたり、食肉などの食品の安全性を監視する公衆衛生分野に携わる獣医師のほか、動物愛護管理行政に携わる獣医師もいます。

そのほか、動物園や水族館、学校、福祉施設、自然のフィールドなど、さまざまな分野で獣医師が活動しています。

獣医師の仕事は、動物の健康だけでなく、人の健康にも深く関わっており、私たちの安心で安全な暮らしと密接な結びつきを持っています。

獣医師は、地球上の「いのち」あるところすべてを活動の場にしていると言っても過言ではないのです。

～世界で活躍するDr. ジャパン～



アジアやアフリカなどの発展途上国に暮らす人々にとって家畜は貴重な「財産」です。その現地の人々の財産を守るために、今も日本人獣医師がさまざまな国で活動を続けています。

豊富な知識と経験を持った獣医師が技術協力の最前線に立って、家畜伝染病の防疫や家畜の健康管理を行っており、現地の人々の生活の支えとなっています。

日本人獣医師は、獣医療の専門家として派遣されているほか、青年海外協力隊員として活躍しています。



動物診療分野

- 家畜(牛、馬、豚、鶏等)の診療および飼育指導
- 犬・猫・小鳥等の家庭動物の診療および飼育指導

獣医学術の振興・獣医教育・研究分野

- 獣医学生の教育
- 獣医学術の研究

学校動物飼育・動物介在活動分野

- 学校動物の飼育指導および診療
- 動物を活用した社会福祉活動および動物介在活動

野生動物分野

- 動物園・水族館動物の診療
- 希少動物の人工繁殖
- 野生動物の保護・管理

海外協力分野

- 海外技術協力(専門家の派遣・研修生の受入による技術移転等)

バイオメディカル分野

- 動物用・人体用医薬品の開発
- 動物用・人体用医薬品の安全性の確保
- 実験動物管理
- 遺伝子組換え等バイオテクノロジーの開発と活用

こんなに広い!
獣医師の
活動分野

公務員分野

- 家畜伝染性疾病の防疫(国内防疫・動物検疫)
- 畜産農家の指導(飼育管理・衛生指導等)
- 家畜の改良・増殖(人工授精・受精卵移植等)
- 家畜疾病に関する試験・研究
- 動物用医薬品の検定(医薬品の安全性の確保等)
- 薬事監視(畜産物の安全性の確保等)
- 魚病防疫(水産分野との連携・協力)
- 食肉検査(食肉等の安全性の確保)
- 狂犬病等の予防(人と動物の共通感染症の予防)
- 食品衛生監視・指導(食品の安全性の確保)
- 環境衛生監視・指導(環境の保全)
- 人と動物の共通感染症に関する試験・研究
- 動物愛護思想の啓蒙・普及

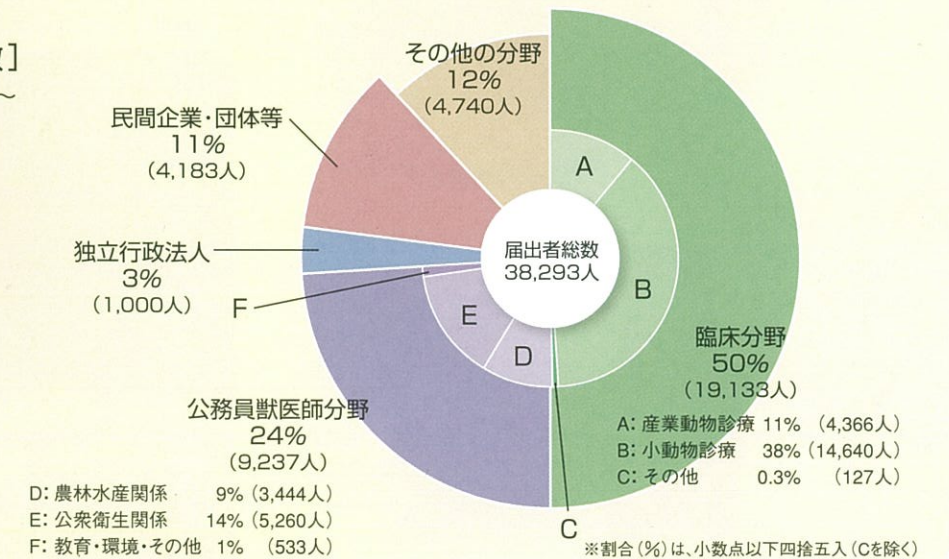
■ 獣医師数と活動分野

わが国の獣医師の数は、獣医師法第22条の届出によると38,293人(平成24年12月31日現在)。このうち、日本獣医師会の構成獣医師は27,104人(平成26年8月31日現在)で、組織率にして約71%となります。

獣医師は、多様な職域において、動物の診療に従事する「臨床分野」をはじめ、家畜衛生や食品衛生等に従事する「公務員獣医師分野」、大学・研究所などの教育・試験研究、医薬品の開発食品製造などの「民間企業分野」などに就業しています。

[活動分野ごとの獣医師数]

～獣医師法第22条の届出による～
(平成24年12月31日現在)



大切な家族の一員である家庭動物の健康を守る身近なドクター 動物病院の獣医師は、治療だけでなく、さまざまな相談にも応えます

家庭動物の健康を守る〈小動物診療〉

コンパニオン・アニマル（伴侶動物）とも呼ばれ、大切な家族の一員として人とともに暮らす犬や猫、小鳥やウサギなどの家庭動物たち。その健康を支えているのが動物病院の獣医師たちです。

最近では動物病院にもさまざまな形が見られるようになってきました。よく知られているのは、一般診療を行う動物病院で、そこでは治療のほか、健康診断やしつけ、栄養相談など、動物の飼育にかかわるさまざまな相談にも応え、問題の解決に取り組んでいます。

また、専門病院も増えてきており、高度な知識や技術を修得した獣医師たちが、専門的な診療を行っています。そこでは人と場合と同様に、専門の診療科が設けられ、動物の総合病院としての役割を担っています。そのほか、猫、小鳥、ハムスター、ウサギなどの動物種ごとの専門病院もあります。

小動物診療では、狂犬病予防対策をはじめ、各種の人と動物の共通感染症の予防対応も重要な役割です。

各地の動物診療の現場では、獣医師の仕事を支える大切な存在として多くの動物看護職の方々も活躍しています。日本獣医師会では、動物の健康に関わるさまざまな活動をしている方々との連携を深め、よりよいチーム獣医療の提供に努めています。



ホームドクターとしての獣医師

動物病院には、日々治療を求めて小さな動物たちがやってきます。犬、猫、小鳥、ハムスター、ウサギ、中にはヘビやトカゲなどは虫類やカメなども動物病院を訪れます。そこで働く獣医師たちは、飼い主さんにとって身近な存在であるホームドクターです。

ホームドクターの仕事は動物を診ることでありますが、そのほかにもしつけやペットフードについてなど、動物の飼育にかかわるさまざまな悩みや疑問に対応するのも大切な仕事のひとつ。ホームドクターは、動物の診療を通じて飼い主さんの暮らしをより豊かなものにするためのサポート役であるといえるのです。

"かかりつけの医師"としての役割

すべての動物に画一的な治療を施すことがホームドクターの仕事ではなく、それぞれの飼い主さんと相談しながらベストと思われる治療を選択しなければなりません。言葉を持たない"患者"を診ることはとても大変なことです。飼い主さんと二人三脚で動物の健康を守っていくことがホームドクターとしての役割であり、獣医師としての仕事の醍醐味でもあります。

小動物のための高度先端医療

動物も人の場合と同じで、設備などの問題によって、どうしても専門的な治療が必要になる病気があります。そのような病気に対応するためには、専門的な知識や技術のほか、高度医療機器を使った治療やCT、MRI、PET などのような特殊な検査が必要となります。

近年では、皮膚科、腫瘍科、外科、神経科、動物行動科、歯科、眼科など、人の医療と同様に専門分野に分かれた「総合病院」としての機能を備えた動物病院もあり、そこではより専門性の高い治療が行なわれます。

多くの場合、このような動物病院ではホームドクターと連携しながら治療を進めています。

難病に立ち向かう獣医師

人と同じで動物もガンになります。近年では、治療技術や医療機器が進歩するなど、人の場合と同じような検査や治療を施すことができるようになりました。外科療法や放射線療法のほか、抗ガン剤療法や免疫療法など、腫瘍に対する総合的な診療を行なう獣医師がおり、ホームドクターとの連携のもと、多くの動物たちの命を救うために日々努力しています。

獣医師は、家畜の健康を守ることによって 私たちの暮らしを支えることに貢献しています



家畜の健康を守る〈産業動物診療〉

私たちの食生活に欠かせないものとして、卵、牛乳、肉といった畜産物があります。これらを生み出しているのが牛や豚、鶏といった家畜です。この家畜の健康を守ることも獣医師としての重要な仕事です。

産業動物診療分野に従事する獣医師にとっての"患者"は、乳牛、肉牛、豚、鶏や競走馬などの家畜です。この分野で働く獣医師は、産業動物として私たちの暮らしと密接にかかわっている家畜の病気の予防・診療、飼養管理、衛生管理などのほか、繁殖の専門家として農業共済組合や産業動物診療施設で活躍しています。健全な飼養衛生管理が行なわれるように畜産農家の指導にあたるのも獣医師の大切な仕事となっています。

また、人工授精や受精卵移植など、家畜の改良増殖の仕事に従事する獣医師もあり、肉牛の増産などに貢献しています。

そのほか、ニジマス、ヤマメ、イワナなどを育てる養魚場でも、獣医師が水産試験場の技術者などとともに「魚病」の発見・予防のために努力しています。

獣医師は、貴重な食料資源でもある家畜を病気から守り、生産性を向上させることによって畜産農家とともに私たちの生活を支えています。

「受精卵移植」って知っていますか？

質の高い家畜をより多く生み出すことが期待される最新のテクノロジー

「受精卵移植」とは、人工授精した受精卵をメスの子宮から取り出して他のメスの子宮に移植する技術です。採取した受精卵は、すぐに移植されるか、あるいは一度凍結保存されたのち、適切な時期に移植される場合があります。受精卵の大きさはほぼ150ミクロン。もちろん肉眼では識別できません。移植には受精卵を顕微鏡下で2分割したのちを使います。この技術により、家畜の品種改良や肉牛の増産が可能になるとされ、大きな期待が寄せられています。

現在さまざまな機関で受精卵移植の積極的な活用に取り組んでいます。獣医師は、このような家畜の改良増殖の分野でも活躍しています。



～大型診療車での往診～

家畜の診療には、開業獣医師だけでなく、農業共済団体などの獣医師も従事しています。そのような団体の中には、検査のための精密機器を積み込んだ大型診療車を備えているところがあります。このようなハイテク診療車を利用することで、迅速な検査と診断が可能になります。



移動しながら飼養現場で診る

牛や馬といった大型の家畜の場合は、犬や猫などの小動物と違って、診療施設で治療することができません。そのため、獣医師が自ら畜産農家へ行き、現場で治療を行う必要があり、飼養現場が診療室となります。獣医師は、その場で診断を行い、ただちに投薬などの必要な処置を施します。

この仕事は畜産農家を巡回することが多く、1日100km近く移動することもまれではありません。このため、最新の知識や優れた専門技術だけでなく、強靱な体力や臨機応変に対応するための判断力なども要求されます。

大切なのは農家との信頼関係

安心・安全な畜産物を安定して供給し続けるためには、家畜の病気予防も大切であり、農家へのアドバイスも獣医師の重要な仕事のひとつです。そのためには経験や知識、最新の情報などももちろん、生産者との信頼関係を築くことも重要となります。生産者との積極的なコミュニケーションを図り、安全性や生産性の向上に努めることも獣医師の役割として大切なことなのです。



感染症から家畜を守るために

大規模な畜産の場合、問題となるのは個々の病気ではなく、そこで飼育されている多くの家畜に影響をもたらす感染症です。そのため、従来の病気の治療や予防だけでなく、「群れ」としての家畜の管理も獣医師の仕事となります。

大規模農家からはさまざまな生産データが獣医師のもとに送られてきますが、獣医師は自らそれらを精査し、農家を巡回しながら的確なアドバイスをします。群管理で最も重要となるのは病気を出さないこと。私たちの暮らしに必要な不可欠な産業である畜産の安全性を維持・向上させるために、獣医師は日々努力を重ねています。

生産の一環にいる獣医師

産業動物診療分野で働く獣医師たちは、肉や牛乳など、私たちの暮らしになくてはならない食料の生産に深くかかわっています。食品の安全性が大きく取りざたされる昨今、獣医師の果たすべき役割はますます重要なものになっています。また、生産物の安全性についての正確な情報を消費者に対して発信していくことも獣医師の果たす役割のひとつであると考えています。

獣医師は公務員としても活躍し、畜産の発展や公衆衛生の向上そして、動物の福祉・愛護精神の普及などにも貢献しています

公的機関で活動する獣医師

獣医師は、国家公務員や地方公務員として公的機関でも活動しています。

公務員として働く獣医師は、家畜の疾病のまん延を防ぐための[家畜衛生]、畜産物の衛生検査などや人と動物の共通感染症対策、動物福祉・愛護精神の普及といった[公衆衛生]に携わっています。

公務員としての獣医師の仕事は多岐にわたっており、私たちの暮らしとも密接につながっています。



家畜衛生

家畜の伝染病の防止を通じて畜産の発展や食料の安全供給に貢献しています



〈国内での家畜の疾病を防ぐ〉

口蹄疫、牛海綿状脳症(BSE)、高病原性鳥インフルエンザといった家畜の感染症が最近国内で発生しましたが、どれも速やかに制圧されました。その防疫対策の中心となって活躍したのが、家畜保健衛生所の獣医師です。

感染症には発見後、速やかな届出が必要な法定伝染病のほかにも多くの感染症があります。感染症については、多くの研究機関でより良い診断・治療のための研究が日々研究され、実際に家畜防疫の現場で活かされています。獣医師の努力により、日本の家畜防疫は国際的に高い評価を得ています。

〈水際で家畜の疾病の侵入を防ぐ〉

農林水産省は全国の港や空港で獣医師による動物検疫業務を行っています。動物検疫所では、生きた家畜だけでなく、骨・肉、毛皮類などの畜産物や人工授精に用いる精液などの検疫を行ない、国外からの感染症の侵入を水際で防いでいます。

公衆衛生

食品衛生、感染症予防、動物福祉・愛護精神の普及を通じて、私たちの安全な暮らしに貢献しています



〈公衆衛生や食の安全の向上に貢献〉

家畜は食肉処理場や食鳥処理場などで畜産物となります。獣医師などの食品衛生監視員が食肉加工の過程で衛生検査を行い、食中毒やBSEなどを防止し、畜産物の安全性を確保しています。

〈人と動物の共通感染症対策〉

国や自治体の研究機関では、獣医師が狂犬病をはじめとする人と動物の共通感染症の防止対策や、発生した場合の速やかな対策に取り組んでいます。

〈動物福祉・愛護精神の普及〉

捨て犬や捨て猫が悲劇的な運命をたどることは、皆さんご存知だと思いますが、そのような現場でも動物たちは獣医師に支えられています。命の尊さを知り尽くしている獣医師は、不幸な動物たちを減らすために、動物の里親探しや飼い主への飼育指導など、動物福祉・愛護精神の普及に行政とともに取り組んでいます。



家畜伝染病対策の最前線で働く獣医師

公務員として家畜保健衛生所などで働く獣医師は、家畜の伝染病予防とまん延防止に努めています。主に法定伝染病である口蹄疫やBSE、鳥インフルエンザなど、発生すると大きな被害が予想される疾病に対して、農林水産省や各都道府県と連携して対策にあたっています。生産者への情報提供や飼養環境などに関する指導も重要な仕事です。また、法定伝染病以外の疾病についても、病気が疑われる家畜の精密検査や診療獣医師と協力しての治療など、適切な対応をとっています。

家畜の病気は予防が最も重要です。そのため、獣医師はさまざまな検査や生産者への指導を行い、安全な畜産物の安定生産に貢献しています。



海外からの動物の病気の侵入を防ぐ

空港や港には動物を介して海外から侵入する病気を防ぐための検疫所があり、家畜防疫官としての仕事に従事する獣医師がいます。ここでは、旅行者が持ち込む動物(犬や猫など)や家畜、展示動物のほか畜産物の検査も行います。これらの業務すべてに獣医師が携わり、日夜病気の国内侵入に目を光らせています。

例えば、馬の場合、法令に基づいて10日間係留し、係留期間中は朝夕2回の健康チェックを行いながら、血清学的検査や微生物学的検査などさまざまな検査を行います。輸送疲れで馬が体調を崩してしまった場合は、夜間や休日であっても診療獣医師とともに対応にあたります。



食卓の安全を守る獣医師

各自治体には「食肉衛生検査所」というものがあり、そこでは「と畜検査員」として働く獣医師がいます。と畜検査員は、まず生きた家畜の健康状態を視診や触診などで確認し、と畜後には血液、内臓、筋肉などのチェックをします。そこで万が一異常が見られた場合は、一部を検査材料として採取し、細菌検査、血液検査、病理検査、理化学検査などを行います。牛の場合はBSE検査が必ず行われています。

安全な食肉を安定して供給することは獣医師の重要な仕事のひとつですが、近年、食肉の安全性に対する意識が高まっており、この分野での獣医師の果たすべき役割はますます大きなものになっています。



動物愛護の心を育てる

TVドラマや映画にも登場し、ご存知の方も多いと思いますが、都道府県の動物愛護相談センターなどでも獣医師は活躍しています。

ここで働く獣医師は、捕獲・収容された犬や猫などの動物の処分・譲渡のほかに、動物愛護の精神の啓発や適正な飼育法の指導、人と動物の共通感染症の調査・研究、ペットショップの監視、小学校に出向いての動物教室の開催、飼育やしつけなどの電話相談など、さまざまなことを行っています。

犬や猫は最後まで愛情と責任をもって飼うべきもの。動物愛護行政や小動物診療に携わる獣医師は、動物の幸せな一生をサポートしていく必要があると考えます。

獣医師はアカデミックな活動だけでなく、動物園や水族館、学校などでも人と動物が共生する豊かな暮らしを支えるために活動しています

こんなところにも！ さまざまな分野で活躍する獣医師たち

これまでのページでは、小動物診療や産業動物診療にあたる獣医師、公務員として家畜衛生や公衆衛生に取り組む獣医師の活動を紹介してきましたが、獣医師の活動場所はほかにも多々あります。私たちが暮らすさまざまな分野で獣医師が活躍し、社会の発展に大きく貢献しています。

皆さん、もう一度動物を取り巻く環境に目を向けてみてください。きっと「いのち」あるところで懸命に働く獣医師たちの姿が見えてくるはずです。



獣医学術の振興・獣医学教育・研究

大学や研究機関などで獣医学に関する調査研究を行うとともに獣医学生を教育する

大学や研究機関では、獣医学に関連するさまざまな調査研究を行っています。それらの研究成果は学術集会や学会などで発表され、獣医学術の振興・普及に貢献しています。優れた調査研究が獣医師が活動する分野で役立つことはもちろん、社会全体に役立つことも少なくありません。また、大学には教員として獣医学生の教育に力を注ぐ獣医師がいます。具体的な症例の検討などを通じ、知識や技術を深めていきます。次代を担う後進の育成も獣医師の大切な役割のひとつです。



学校動物飼育支援

動物の飼育体験を通じ、子供たちに豊かな心を育てる動物介在教育

学校では、動物飼育の実践を通じて子供たちの豊かな心を育む「心の健康教育（動物介在教育）」が行われています。獣医師は、学校で飼育される動物の衛生管理、動物愛護と福祉の観点に立った適正飼育を行ううえで指導的な役割を果たしています。現在、地方獣医師会との連携・協力のもとに、多くの獣医師が活動しています。

文部科学省も動物飼育を活用した教育を奨励しており、各地域で獣医師が学校や幼稚園を訪れ、そこで飼育されている動物の飼育指導や診療活動を行っています。



動物介在活動

福祉施設訪問等の社会活動を通じて心の健康を支える

高齢者施設や養護施設などの福祉施設や病院、幼稚園などを動物とともに訪問するボランティアグループがあり、そこでも獣医師が活躍しています。難病と闘う子供が入院している病院を訪れることもあり、動物たちの健康チェックは獣医師の重要な役割となっています。この活動は、動物の持つ温もりや優しさに触れることで、動物介在療法を実践するものであり、医師とともに行うことでさまざまな成果を上げています。人々の心の健康を支えることも獣医師の大切な仕事といえます。



野生動物対策・動物園動物診療

野生動物の保護・管理を通じて環境を保護する

傷ついた野生動物たちを懸命に救おうとする獣医師がいます。彼らの活動が社会の共感を呼び、野生動物救護獣医師協会の設立や、各地の野生動物救護センターの開設など、その活動の輪は徐々に広がっています。

動物園や水族館の獣医師の仕事は、展示動物たちの健康を守ることだけではありません。希少動物の保護活動や繁殖活動にも取り組み、そのネットワークは世界中に広がっています。また、展示動物の生態にあった自然な環境づくりにも取り組んでいます。



バイオメディカル

医師と協力して実験動物を管理し医薬品の開発等を通じて、人の医学にも貢献

動物の健康を保つには、ワクチンをはじめとするさまざまな医薬品が欠かせません。獣医師は動物薬の開発にも携わり、医薬品の予防効果、治療効果、毒性などを調べる各種の有効性試験や安全性試験を行っています。

また、動物薬だけでなく、人の医薬品を製造するメーカーでは、製品の開発に欠かせない実験動物の飼育・管理も獣医師の重要な役割となっています。新薬の開発などにも多くの獣医師が携わり、人の医学の発展にも貢献しています。



海外技術協力

家畜衛生、公衆衛生の発展に協力し発展途上国の人々の生活の向上に努める

国際協力機構（JICA）のプロジェクトを中心に、獣医学のさまざまな分野での国際貢献が行われています。アジア、アフリカ、南太平洋地域、中南米などで家畜の健康管理や家畜衛生・公衆衛生分野の指導などに日本の獣医師が力を発揮しています。海外の獣医大学の設立・運営の支援など教育分野でも大きな役割を果たしています。

また、最新獣医学の研究成果を学ぶために研修生として日本を訪れる外国人獣医師たちも多く、さまざまな機関で海外からの研修生を受け入れています。

